

KONAN UNIVERSITY

## 次世代育成を含むライフプラン形成に向けて

著者	北川 恵
雑誌名	心の危機と臨床の知
巻	20
ページ	3-4
発行年	2019-03-20
URL	<a href="http://doi.org/10.14990/00003314">http://doi.org/10.14990/00003314</a>

## 「次世代育成を含む」

### ライフプラン形成に向けて」

人間科学研究所所長

北川 恵

甲南大学人間科学研究所では今年度、研究実践プロジェクト「現代人の心の危機に関する共同研究～Phase 5：過去と向き合い、未来を創る」の継続および、KONANプレミア・プロジェクト (KONAN Research & Education) 「ひょうご子ども・子育て未来プラン」連携！研究教育プロジェクトの進展に取り組んできました。とりわけ、「子ども・子育て」に関する研究を開展させるために計画した研究課題「次世代育成を含むライフプラン形成の促進を目指す実態調査・実践的研究・施策検討」については、木下記念事業団平成三〇年度学術研究活動補助事業助成金を受けて、学内の複数の学部・学科所属の兼任研究員からなるチーム体制で取り組んでいます。実態調査としては、西宮市で子育て中の働く母親と専業の母親を対象とした「働き育てることの実態調査」を進めています。実践的研究としては、人間科学研究所が主催したり学内で開催されたりしている地域住民が参加できる実践研究活動に学生が積極的に参加し、異世

代交流の機会を設けています。東灘区が行っている子育て支援活動との交流も行っています。施策検討としては、各地域の特性に基づいた「育ちやすさ・育てやすさ」を目指すために、兵庫県との連携を軸として、養父市、姫路市、尼崎市等とも新たな協力関係を育みながらデータを収集・検証しています。研究チームは毎月の定期的なミーティングを継続し、相互の進捗を共有してきました。その成果を還元する場として、行政や地域住民、専門家に対する公開研究会や刊行物等での発信に加えて、本学学生に対しても、全学共通科目「ライフプラン教育」を二〇一九年度に開講します。甲南学園創立一〇〇周年（二〇一九年四月二一日）を迎えるにあたり、本学の建学の精神「人物教育」に、本研究所が貢献できることと準備を進めています。

若者にとって、「働き・育てること」に前向きで能動的な展望を育むことができるためには、働き育てる世代が生き生きとした姿を見せ、若者が多様な選択肢とともに将来への夢や憧れをもてることが重要と考えられます。昨年度、兵庫県および神戸新聞社子育てクラブすきっぷが行った「二日パパ・ママ体験！」大学生の子育て家庭訪問」事業に、当研究所も協力参加しました。体験活動に参加した学生（兵庫県の複数の大学の学生五一名・男性三名、女性四八名）のうち、普段三歳以下の子どもと接する機会があまりない・全くない人が過半数を占めており、体験前は「育児がうまくできるか不安」と回答した者が六

5%でした。子育て家庭に訪問し、子どもや母親と交流する体験に参加した後、育児に対する不安が軽減されたという回答が八一%あったと報告されています（兵庫県・神戸新聞社、二〇一八）。交流体験によつて不安が軽減されたことはよかったです。不安が軽減されなかったという回答は誠実に子育てについて考えたからこそ結果かもしれない。実際に母親たちのなかには、子どもや子育てに触れる経験がないまま親になり、思い描いていたような幸せな親子の交流だけではなく、予想していなかった生活の変化や育児の実情に戸惑うこともあり。そういう意味では、学生が子育ての実際に触れることで、新たな不安が生まれることは自然なことかもしれません。そうしたときに、困難な状況があつても、様々な力や助けを得ながら前向きに乗り越えている親たちの姿に触れることが、より地に足のついた不安軽減につながると考えられます。また、大学生の家庭訪問を受け入れた母親たちからは、学生に話をすることで、今の自分の生き方の意義を改めて見出したという感想もよせられました。異世代交流の意義は、双方にあることも実感しました。兵庫県・神戸新聞社による事業は終了しましたが、本研究所として異世代交流を継続し、その効果を検証していきたいと考えています。

生き生きと働き・育てる、という意味では、我々研究員のワーク・ライフ・バランスも重要な課題の一つです。どの大学や職

場においても年々業務量が拡大している状況のなか、博士研究員、兼任研究員、客員特別研究員として当研究所の研究活動に従事している研究員一同が、自らの生活を豊かにさせながら、意義のある研究課題に取り組める体制を継続的に目指していきたいと考えています。

今年度の当研究所紀要は Vol.20 という節目の刊行となりました。当研究所の研究活動にお力添えをいただいています皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。紀要をお読みくださった先生からの忌憚ないご意見を拝受できれば幸いです。

兵庫県・神戸新聞社（二〇一八）一日パパ・ママ体験！〜大学生の子育て家庭訪問〜二〇一七年度リーフレット (<http://n-kobe.com/skip/>)

（きたがわ めぐみ）